

【PRESS RELEASE】

ケーブルテレビ記者会 会員各位

平成30年2月23日

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

第63回 前島密賞 受賞者決定について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本日 15 時に公益財団法人 通信文化協会が報道資料「第 63 回 前島密賞 受賞者決定について」を総務省記者クラブならびに郵政記者クラブに配布しております。

今回、一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟の監事 塩冶 憲司氏（㈱CCJ 代表取締役社長、㈱シー・ティー・ワイ 取締役相談役）が受賞されました。公益財団法人 通信文化協会の報道資料をご参考までにケーブルテレビ記者会会員様へも送付させていただきます。

敬具

～本件に関するお問合せは下記までお願いいたします～

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟

尾崎 ・ 小濱 TEL : 03-3566-8200

第 63 回前島密賞 受賞者決定について

公益財団法人通信文化協会

(電話: 03-5809-7148)

公益財団法人 通信文化協会では、第 63 回 (平成 29 年度) の前島密賞の受賞者を別紙のように決定し、その贈呈式を 4 月 10 日 (火) に行います。

記

1 前島密賞の趣旨等

前島密賞は、逓信事業の創始者「前島密」の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため昭和 30 年 (1955 年) に設けられたもので、以降毎年度、情報通信事業 (郵政事業を含む) 及び放送事業の進歩発展に著しい功績のあった者に贈呈しています。

今回の受賞者は、16 件、27 名 (内 4 件、15 名は共同研究による受賞) です。

受賞者には、副賞として元・日展評議員高橋剛氏作のメダル (ただし、共同研究による受賞者には金一封) が贈られます。

○ 前島密賞規程 (抄)

第 1 条 近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流を初めとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした逓信事業の創始者前島密の功績を記念し、コミュニケーション分野でその精神を伝承発展せしめるため前島密賞を設ける。

第 2 条 前島密賞は、情報通信・放送に関わる次の各号ごとに、特段の功績があったと認められる者に贈る。

- 1 情報通信ネットワークの提供及びユニバーサルサービスの維持のために顕著な功績があった者
- 2 ICT (情報通信テクノロジー) に係わるイノベーションを発案し、ネットワーク社会の進歩発展に顕著な功績があった者
- 3 ネットワーク社会の進歩発展又はコミュニケーション文化の振興・発展に関し、顕著な功績があった者

2 選考要領

毎年、当該年度の実施要領に示す推薦機関から受賞候補者の推薦を受け、選考委員会 (委員 11 名で構成) の議を経て理事会で決定します。

3 贈呈式

平成 30 年 4 月 10 日 (火)、午前 11 時 00 分から、「KKR ホテル東京」 (千代田区大手町 1-4-1) にて挙ります。

(参考) 公益財団法人 通信文化協会 定款 第 3 条

本法人は、郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的とする。

第63回 前島密賞 受賞者 名簿

(1/2)

推薦 10機関 16件 27名

敬称略・年齢は平成30年4月10日現在

推薦機関	候補者	年齢	職歴等	功績	備考	
総務省 (3件6人)	タケヤマ ヨシオ 武山 芳夫	64歳	(一社)日本経済団体連合会 情報通信委員会企画部会長 第一生命情報システム(株) 代表取締役会長	3号		
	○ 標準時および周波数標準に関する研究開発					
	ホソカワ ミズヒコ 細川 瑞彦	59歳	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事	2号		
	○ サイバー攻撃統合プラットフォームの研究開発と社会展開					
	共同研究 (4人)	イノウエ ダイスケ 井上 大介	43歳	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究室 室長	2号	
		スズキ コウエイ 鈴木 宏栄	39歳	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究室 主任研究技術員	2号	
ツダ ユウ 津田 侑		33歳	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究室 有期研究員	2号		
タカギ ヤ イチロウ 高木 彌一郎		50歳	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究室 有期研究技術員	2号		
日本郵政(株) (3件3人)	ヒラタ ヨシミツ 平田 好光	66歳	元 (北海道)栗山郵便局長 元 全国郵便局長会理事	1号		
	オオワダ ケン 大和田 賢	70歳	元 郵便事業(株) 神田支店長	1号		
	サカモト ヨシサダ 坂本 義定	69歳	元 郵便事業(株) 松山支店長	1号		
日本電信電話(株) (3件7人)	ミヤ マサキヨシ 三田 清	74歳	元 日本電信電話(株) 常務取締役企画室長 元 エヌ・ティ・ティ都市開発(株) 代表取締役社長	1号		
	○ H.265映像符号化LSI“NARA”および符号化装置の開発と実用化への貢献					
	共同研究 (1位)	ナカムラ ケン 中村 健	45歳	日本電信電話(株) メディアインテリジェンス研究所 主任研究員	2号	
		オオニシ タカユキ 大西 隆之	43歳	日本電信電話(株) メディアインテリジェンス研究所 主任研究員		
		ニッタ コウヨウ 新田 高庸	47歳	日本電信電話(株) デバイスイノベーションセンタ 主幹研究員		
	○ 3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化					
共同研究 (2位)	カワハラ トシロウ 河原 敏朗	51歳	(株)NTTドコモ 無線アクセス開発部 担当部長	2号		
	フルカワ ケンジ 古川 憲志	53歳	(株)NTTドコモ ネットワーク部 担当部長			
	ハンモト ケンジ 橋本 研司	49歳	(株)NTTドコモ 移動機開発部 担当部長			

敬称略・年齢は平成30年4月10日現在

推薦機関	候補者	年齢	職歴等	功績	備考
(日本放送協会) 2件 2人	サクライ ヨウコ 桜井 洋子	66歳	元 日本放送協会 アナウンス室 エグゼクティブアナウンサー	3号	
	○ 安心・安全なパーソナルデータ利活用のための暗号方式の開発				
	オオtake ヨウ 大竹 剛	42歳	日本放送協会 放送技術研究所 ネットサービス基盤研究部	2号	
(一社)電気通信事業者協会 共同研究(5人)	○ 遠隔作業支援システム「VistaFinder Mx」の研究開発と実用化				
	ツジ トモヒロ 辻 智弘	43歳	(株)KDDI総合研究所 ソフトウェアインテグレーショングループ 研究マネージャー	2号	
	ヨネヤマ アキオ 米山 暁夫	48歳	(株)KDDI総合研究所 教育・医療ICTグループ グループリーダー	2号	
	オハタ ジュン 小幡 潤	45歳	KDDIテクノロジー(株) 事業推進部 次長	2号	
	サワ ヒロヤス 澤 広泰	47歳	日本通信エンジニアリングサービス(株)出向 技術1部企画グループ グループリーダー	2号	
	フルヤ ノブ 古谷 信雄	60歳	KDDI(株) ソリューション事業本部 ビジネスIoT推進本部 ビジネスIoT企画部 マネージャー	2号	
(一財)日本ITU協会 (一社)電波産業会	ハンモト アキラ 橋本 明	70歳	(株)NTTドコモ ネットワーク部 標準化カウンセラー	3号	
(一社)日本民間放送連盟	セキ ヨシユキ 関 祥行	72歳	(株)フジテレビジョン 常任顧問	1号	
(一社)テレコムサービス協会	コレエダ ノブヒコ 是枝 伸彦	80歳	(株)ミロク情報サービス 代表取締役会長	1号	
(一社)日本ケーブルテレビ連盟	エンヤ ケンジ 塩冶 憲司	61歳	(株)CCJ 代表取締役社長 (株)シー・ティー・ワイ 取締役相談役	1号	

* 功績欄 1号は「前島密賞規程第2条1号」(事業業績)
2号は「前島密賞規程第2条2号」(研究開発)
3号は「前島密賞規程第2条3号」(文化振興)

第63回前島密賞受賞者功績概要

◎ 敬称略・年齢は平成30年4月10日現在

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
	タケヤマ ヲシオ 武山 芳夫 (64歳)	東京都	(一社)日本経済団体連合会 情報通信委員会企画部会長 第一生命情報システム(株) 代表取締役会長	科学技術分野の文部科学 大臣表彰 科学技術賞 開発部門「正確さと信頼 性を高めた標準システム の開発」 H25	【インターネットの健全な発展のための国際的実現に向けた産業界からの貢献】 インターネット上で国境を越えて流通するデータについては、セキュリティの確保や個人情報保護を考慮しつつ、その自由な流通・利活用を促進するための国際的な政策・規制枠組みを構築することが求められています。武山氏は、(一社)日本経済団体連合会(経団連)の情報通信委員会企画部会長として「インターネットエコノミー」に関する日米政策協力対話」の民間作業部会や日EU・IC「戦略ワークショップ」等の2国・地域間の枠組み、更に67におけるマルビシステスホールダー一会合への経団連との積極的な関与等の活動を通じて、各国における情報通信分野の政策及びビジネス環境に関する情報の共有等、官民間の情報共有・意見交換の促進に尽力されるとともに、各国の関係者との間で積極的な議論を行うことで、情報通信分野の発展に資する国際的な意見形成に貢献されました。	
	ホカワ ミヅホ 細川 瑞彦 (59歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 理事	科学技術分野の文部科学 大臣表彰 科学技術賞 開発部門「正確さと信頼 性を高めた標準システム の開発」 H25	【標準時および周波数標準に関する研究開発】 高精度な時間/周波数標準技術は、現代のICT社会を支える最先端基礎技術です。細川氏は、日本における時間/周波数標準機関の研究リーダーとして、日本標準時の発生・供給業務の着実な遂行と、原子時計および関連技術の研究開発を牽引されました。特に、研究者とともに0s一次周波数標準器の開発を進め、世界の標準時のもととなる国際原子時計標準に参加資格を持つ機種を構築されました。さらに、次世代の原子時計と目される光周波数標準器の重要性にいち早く着目し、研究開発体制の確立と育成に尽力されました。その結果、秒の再定義の最有力候補であるSr光格子時計において開発機の計測値が国際委員会で採択され、国際標準値確立に大きく貢献する成果が達成されました。	
総務省	イノウエ タイスク 井上 大介 (43歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 室長	内閣府 第14回産学官連 携功労者表彰 H28 他3件	【サイバー攻撃統合プラットフォームの研究開発と社会展開】 マルウェアにより重要情報を収奪する「標的型サイバー攻撃」に対しては、マルウェアが日々進化している現状では単一のセキュリティ機器だけでは網羅的に検出することは困難になっています。このため、組織内ネットワークを流れるトラフィックをリアルタイムに観測・分析を行うと共に、複数のセキュリティ機器から対策のアクション情報をほぼリアルタイムで集約・分析を行い、それらの情報を3次元可視化表示することで迅速な対策の優先度付けと自動防御の実施を可能とする世界初のシステム「サイバー攻撃統合プラットフォーム」を開発されました。	
	スズキ コウエイ 鈴木 宏栄 (39歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 主任研究技術員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28	◎井上氏は、 サイバー攻撃統合プラットフォームのコンセプト立案から研究開発の総指揮に当たるとともに、3次元実時間可視化のデザインを手がけ、テキストログしか分析手段がなかったセキュリティインシデント対応において、逸早く実時間3次元可視化技術を活用したサイバー攻撃観測・分析・対処技術を立ち上げ、複数セキュリティ機器との連携・統合技術も融合させて開発を進め、社会展開を主導されました。	
	ツグ 津田 祐 (33歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 有期研究員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28	◎OpenGLという非常に非常に3Dグラフィックス・ライブラリと、三角関数や軌道計算等を自在に操る世界唯一の実装力によりシステムの基盤となっているセキュリティ観測機構(センサ/ゲート)の設計・実装を行い、24時間365日“絶対に止まらないシステム”の実現に不可欠な貢献をされました。	
	タカギ ヤシロウ 高木 彌一郎 (50歳)	東京都	国立研究開発法人 情報通信研究機構 サイバーセキュリティ研究 所 サイバーセキュリティ 研究室 有期研究技術員	Best of ShowNet Award 特別賞 (Interop Tokyo 実行委員会) H28	◎津田氏は、 セキュリティオペレーションの最終段階となる集約した異種アラートに対する相関分析機能、自動防御システムの研究開発及び実装に不可欠な貢献をされました。さまざまなメーカーの対策実行機器(アクチュエータ)へ確実かつ迅速に制御命令をだし動作させる技術は「プラットフォーム」としての当システムの根幹となっています。	

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
	ヒラタ 光 平田 光 (66歳)	北海道	(元) 北海道 栗山郵便局長 (元) 全国郵便局長会理事	郵政グループ表彰 (事業優績) H28 他4件	【郵便局長及び郵便局長会役員等として郵政事業及び地域の発展に貢献】 昭和45年6月、郵政省に採用され、平成29年3月、栗山郵便局長を最後に退職されるまで、46年有余の長きにわたり、一心不乱に職務を全うされ、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 主幹地区統括局長及び北海道南空知地区統括局長在任中には、連絡会内の郵会長を対象とした研修を実施し、郵会ごとの相互理解の徹底や営業及び接客に関する勉強会を積極的に行うよう指示し、社員が一丸となって業績向上に取り組み体制づくりに努めました。また、北海道管内の営業推進の向上のために、強い責任感と行動力をもって、郵便局長はもとより役員との対話を積極的に進め、業績向上に多大な実績を挙げられました。 さらに、全国郵便局長会理事等として、郵便局長が「トータル生活サポート企業」として、お客さまや地域、社会に貢献するネットワークへ発展していくことを目指し、全国の郵便局をまとめてこられました。	
日本郵政(株)	オホワダ 賢 大和田 賢 (70歳)	埼玉県	(元) 郵便事業(株) 神田支店長	総裁表彰 (事業優績) H18	【東京支社幹部及び神田支店長等を歴任し、郵政事業の発展に貢献】 昭和41年3月、郵政省に採用され、平成20年3月、郵便事業株式会社神田支店長を最後に退職されるまで、42年有余の長きにわたり職務に精励され、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 東京支社企画部長等在任中、共通部門は現業部門を支える立場であることと、効率的な業務の推進を図るとともに良好な労使関係の構築に尽力されました。 郵便局長就任後は、現業部門の最高責任者として郵便業務の正常運行を確保するとともに、郵便貯金、保険年金についても各種施策を活発に講じて周知、宣伝活動を行うほか、事故犯罪の防止にも意を注ぎ、積極的に防犯会議を開催する等、業務の円滑な運行に努められました。また、職員との対話を積極的に行い、対話から得られた情報をもとに、お客さまのニーズに沿ったサービスの提供を心がけ、喜ばれる郵便局づくりに尽力されました。	
	イサカ 義定 坂本 義定 (69歳)	愛媛県	(元) 郵便事業(株) 松山支店長	総裁表彰 (事業優績) H19	【四国支社幹部及び松山支店長等を歴任し、郵政事業の発展に貢献】 昭和42年7月、郵政省に採用され、平成21年3月、郵便事業株式会社松山支店長を最後に退職されるまで、41年有余の長きにわたり職務に精励され、郵政事業の発展に多大な貢献をされました。 高松南郵便局郵便課長在任中は、四国の先陣を切って年賀業務運行の改善に取り組み、地域区分局における年賀業務運行パターンを確立し、元日配達年賀郵便物の増加等、作業能率の向上と経費削減において顕著な効果を挙げられました。その取り組みは、管内の他の地域区分局にも導入され、事業の基礎強化に大きく寄与しました。 四国支社郵便事業部長在任中は、小包郵便物や書留郵便物の配達率向上及び返還郵便物減少に取り組み、各郵便局に「自局の返還率状況の毎週確認と周知」、「再配コール記録票の統一」、「指定場所配達率の統一」等を指示して管内の留置期間経過返還率を低減させ、品質向上及び経費削減を同時に成し遂げるなど、生産性の向上に尽力されました。	

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本電信電話(株)	ミタ ケン 三田 清 (74歳)	東京都	(元) 日本電信電話(株) 常務取締役企画室長 (元) エヌ・ティ・テック都市開発(株) 代表取締役社長	第53回 H24 電気通信協会賞	【電気通信事業の公正競争促進等による情報通信産業の健全な発展と国民生活の利便性向上への貢献】 民営化の前年より広報部オレンジャー(お客様相談センター)所長を務め、民営化に先駆け、お客さまの声を事業運営へ取り入れ、サービスの改善に活かす取り組みを展開されました。民営化とともに電気通信事業の分野に新規事業者の参入が始まる中、平成元年に営業企画部長に就任して以降は、市場の育成と公正競争の促進に尽力されました。平成3年には「公正競争に関するNTTの基本的考え方および行動指針」の制定にかかわり、通信サービス上の公正で健全な競争の促進と電気通信事業全体の発展に大きく貢献されました。平成5年には、20年以上にわたって据え置かれていた公衆電話料金の改定を実施するとともに長距離通話料の値下げを行行う等通話料のバラつきを大幅に削減し、適正な料金体系と料金の低廉化を実現されました。平成7年に取締役就任、当時は、NTTの再編議論の真っ只中であり、関係機関との議論を重ね、平成11年の新生NTT発足の実現に大きく貢献されました。	
	カクラケン 中村 健 (45歳)	東京都	日本電信電話(株) メディアアイデンティティリジェンス 研究所 主任研究員	業績賞(電子情報通信学会) H29	【H.265映像符号化LSI“NARA”および符号化装置の開発と実用化への貢献】 最新の映像符号化標準H.265を用い、従来のTV放送の4倍の圧縮率向上と放送プロ向けの高画質と超低遅延とを同時に満足するH.265映像符号化LSI“NARA”及び符号化装置を初めて開発することに成功しました。放送プロ用途で用いられる仕様に最適化したNARAの高画質・超低遅延は、国内外で広く認められています。NARAおよびそれを搭載した装置は、すでに放送局の素材伝送システムで利用されているほか、4K IPTVサービスやスポーツイベントの4K伝送等、幅広くグローバルに展開されています。さらに、我が国が世界に先駆けて8K試験放送を開始することとを可能としました。	
	オオニシ ユウキ 大西 隆之 (43歳)	東京都	日本電信電話(株) メディアアイデンティティリジェンス 研究所 主任研究員	業績賞(電子情報通信学会) H29	◎中村氏は、放送プロ用途の高水準の画質、さらに4K・8Kといった超高精細映像において高臨場感を実現するハードウェアに適用したH.265映像符号化アルゴリズムの導出という課題に対して、統計的な情報に基づき適応的なアルゴリズムを考案されました。これにより、H.265の演算量を大幅に削減するとともに、符号化性能を十分に引き出すことに成功し、高画質・高圧縮の映像サービスの実現に貢献されました。 ◎大西氏は、H.265の膨大な演算量を1チップに集積するとともに効率的に処理するためのメモリ構成を実現するため、H.265の処理単位の1つのサイズから他のサイズの処理結果を導出可能な構成法を考案されました。また、段階的に符号化予測モードを絞り込んでいくための多段階パイプライン構成を導出するとともに、各パイプライン・ステージに効率的に映像データを供給するための高速映像分配メモリ・アーキテクチャを提案し、LSIに集積化するのに成功されました。 ◎新田氏は、1チップでの処理性能限界を超える8K映像符号化に対して、8K映像符号化の処理分割について、放送に最も適している空間分割手法を提案し、放送規格(ARIB)での標準化を実現されました。さらに本手法の実用化に向けて、チップ間の制御情報やデータ転送等の手法や構成法を導出し、マルチチップ並列符号化制御技術として確立しました。また、本技術を装置に実装することで8K試験放送の開始の実現に貢献されました。	

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
日本電信電話(株)	カハラ 敏朗 河原 敏朗 (51歳)	神奈川県	NTTドコモ無線アクセス開発部担当部長	第28回電波功績賞 大臣表彰 H29 他2件	【FDD方式とのCA(キャリアアグリゲーション)を実現した3.5GHz帯TD-LTEサービスの実用化】 モバイル通信の大容量化および高速化への継続的な需要拡大に対し、新規に割り当てられた3.5GHz帯TDDバンドを効率的に導入・展開することを目的に、既存のFDDバンドと高度な連携を可能とするTDD-FDD CAの標準化を実現し、3.5GHz帯TDD方式とFDD方式のCAによる日本初のサービスの提供を実現しました。さらに無線ベースバンド部と無線部の間に、光デジタル信号を分配するフロントホールド分配装置を実用化し、これによりCAによる高速化に加え、通信が混雑するエリアへのサービスセルの配置による効率的な大容量化と、サービスセルを効率的に早期に展開することを可能としました。	
	フルカワ 憲志 古川 憲志 (53歳)	東京都	NTTドコモネットワーク部担当部長	日本ITU協会賞 功績賞 H27 他1件	◎河原氏は、ベースバンド基地高信号を複数の無線局に分配することによる経済的かつ効率的なエリア展開法を考案するとともに、TDD-FDD CA対応等主要な技術仕様を含む全装置仕様策定の主導し、基地局装置開発に貢献しました。3.5GHz帯TDDと既存FDDのCAを実現する高速通信サービスの提供により無線容量の拡大と効率的なエリア展開を同時に実現することでモバイルネットワークの発展に貢献されました。	
	橋本 研司 (49歳)	東京都	NTTドコモ移動機開発部担当部長	NTTドコモ移動機開発部最表彰 H22	◎古川氏は、3GPPにおけるTDD-FDD CA方式、ならびに3.5GHz帯TD-LTE方式対応技術規格の早期策定に向け、国際標準化団体3GPPへ書入力を主導するなど積極的な寄与を行い早期仕様に貢献し、3.5GHz帯TDDと既存FDDのCAを実現する高速通信サービスの提供により無線容量の拡大と効率的なエリア展開を実現することでモバイルネットワークの進歩発展に貢献されました。	
日本放送協会	サカイ ヨウ子 桜井 ヨウ子 (66歳)	東京都	(元)日本放送協会アナウンス室エグゼクティブアナウンサー	日本放送協会特別表彰 団体 (現:会長賞) H14 他2件	【女性の報道キャスターの草分け】 昭和50年にアナウンサーとして日本放送協会に入局し、放送現場の第一線に「理役で」立ち続け、報道番組から教養・福祉番組を担当されました。昭和59年にNHK女性アナウンサーとしては初めて気象庁記者クラブに所属し、NHKニュースワイドの気象コーナーを担当しました。独自に取材・情報収集し、定時の発表だけではないニュース性の高い「気象コーナー」にしたりと評価されました。その後取材経験を積み、それまでは男性とペアで放送していた「7時のニュース」(土・日)のキャスターを、平成元年4月から単独で担当することになり、後進に大きく道を拓きました。ナレーションの分野でも、NHKを代表する番組を担当し、ニュースの顔と向き合いやすい声で番組を支えました。「木げさではない、サラリとした語り」は、「語り」のあり方のひとつの方向性を示したものです。平成16年の「新潟中越地震」では、地震関連の特番を担当し、ふるさとの復旧・復興につながる報道を続けました。また、NHKが制作してきた過去の番組や映像資料を次世代に伝えるアーカイブ番組を平成20年から8年間担当するなど、放送文化の向上にも多大な貢献をされました。	
	オオタケ ヨウ剛 大竹 ヨウ剛 (42歳)	東京都	日本放送協会放送技術研究所ネットサービス基盤研究部	電気通信普及財団テレコムシステム技術賞 (賞) H28 他2件	【安心・安全なパーソナルデータ利活用のためのプライバシー保護システムの開発】 個人データの多様化が今日、ネットワークを利用した個人向けサービスの重要度が増えています。個人向けサービスを実現するためにはパーソナルデータを取得する必要がある一方、プライバシー保護の問題も生じることから、パーソナルデータの活用方法としてある番組の視聴履歴を保護しつつ、他のサービスに利用する方法を考案されました。パーソナルデータを活用するサービス事業者を属性により区別し、ある属性を持つ事業者のみデータを閲覧できるようにユーザー自身が制御できる「属性ベース暗号」と呼ばれる暗号方式を開発し、テレビやタブレットPCのような低性能なユーザー端末であっても不自由なく動作する方式も開発されました。さらにシステムの安全性を高めるため、ユーザーが許可したサービス事業者に限り、暗号化したままパーソナルデータをキーワード検索して復号できる暗号方式に改良し、パーソナルデータに適用されました。検索によって必要最小限のデータのみのみ事業者に提供されるため、データ漏洩のリスクが低く、事業者は効率的なデータ分析を行うことができようになり、安全・安心なパーソナルサービスの発展に貢献されました。	

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
推薦機関	辻 智弘 (43歳)	埼玉県	㈱KDDI総合研究所 ソフトウェアインテグレーショングループ 研究マネージャー	映像情報メディア学会「技術振興賞」進歩開発賞(研究開発部門) H28 他2件	【遠隔作業支援システム「VistaFinder Mx」の研究開発と実用化】 通信や電気、ガスなどの社会インフラの安定供給の要となる設備運用保守現場の課題を解決するため、遠隔作業支援システム「VistaFinder Mx」を開発されました。本システムは、映像、音声及び拡張現実(AR)を利用し、運用保守現場での作業ミスを軽減したり非熟練作業者を遠隔地から支援することを可能にしました。APIによる作業指示をその場で記入しリアルタイム映像に重畳するシステムは世界初であり、人手不足に悩む運用保守現場にイノベーションをもたらしました。また、多種多様な通信回線で安定的に映像伝送することを可能にし、自然災害時や通信インフラが未整備の地域でも活用できます。	
	米山 晓夫 (48歳)	埼玉県	㈱KDDI総合研究所 教育・医療ICTグループ グループリーダー	映像情報メディア学会 木記念奨励賞 H17	◎辻氏は、ARによる作業指示が作業対象物に正確に重畳されるように、対象物の認識精度と追跡精度を大幅に改善する技術の開発を主導されました。一方で、ARを含む映像の伝送に際し、利用する回線の品質を常時監視して映像符号化処理にフィードバックすることも果たされました。	
	小幡 潤 (45歳)	東京都	KDDIテクノロジ(株) 事業推進部 次長	社長賞(チャレンジ賞) H28	◎米山氏は、本システム開発の初期段階において、ポテンシャルユーザーへの地道な訴求を行ってプロトタイプによる評価を推進し、その結果を開発にフィードバックする流れを構築するとともに、自らが持つ映像符号化・映像伝送の知見を以てシステムの品質向上に貢献されました。さらに、本システムの商用化にあたり、想定利用者のニーズを徹底的に分析し、利便性の高いユーザーインターフェースの実現も果たされました。	
	サトウ ヒロヤス 薄 広泰 (47歳)	神奈川県	日本通信エンジニアリング サービス㈱出向 技術1部企画グループ グループリーダー		◎小幡氏は、本システムの利用拡大のため、多様な業界に渡り利用者にとって最適な利用方法を提案するトライアルシステムを構築して実証実験に取り組むとともに、トライアルで得られた結果を開発にフィードバックすることでシステムの安定化や品質向上に寄与されました。一方で、本システムの導入障壁を下げるクラウド化や、海外での利用を可能にするためのグローバル化を推進し、本システムの展開の場を大きく広げられました。	
	古谷 信雄 (60歳)	埼玉県	KDDI(株) ソリューション事業本部 ビジネスIoT推進本部 ビジネスIoT企画部 マネージャー	ソリューション推進本部 月間MVP H25	◎澤氏は、通信分野における本システムの全国的な普及に貢献されました。また、その過程で得た経験や知見を基に国内の展示会などでの啓発活動を推進し、本システムの活用が広がりました。その対象には、交通インフラの運用保守を行う企業も含まれ、安心・安心・安全な社会インフラの提供において大きな役割を果たされました。	
						◎古谷氏は、本システムを幅広い業界へ展開するため、長年従事してきた映像伝送サービスとの提供に関する知見やノウハウから、本システムの導入障壁を下げるクラウド化の仕組みを生み出し、その企画や推進、販売方法の立案に大きな役割を果たされました。さらに、本システムを広く普及させるための仕組み作りやその加速化においても大きく貢献されました。

(一社) 電気通信事業者協会

推薦機関	氏名(年齢)	住所	職歴等	表彰歴	功績概要	備考
(一財)日本ITU協会	山本 明 アキラ モトヤマ 明 (70歳)	東京都	㈱NTTドコモ ネットワーク部 標準化カウウンセラ	日本ITU協会/総務大臣賞 H18 他3件	【ITU-Rを通じた地上無線標準化に関する貢献】 昭和55年以来、ITU無線通信部門(ITU-R)会合へ日本代表として参加し、無線通信分野における国際標準化の第一線にて活躍するとともに、多数の議長職を務め、我が国の国際競争力の向上に大きく貢献されました。平成3年にはWP9B議長に就任し、固定業務の周波数配置等に関する多数のITU-R勧告採択を実現して、この分野での国際標準化に貢献されました。平成9年に設立されたWP8A-WP9Bの合同会合においては、代表ラポーターとして5GHz帯無線LANに関するITU-R勧告の採択を実現するとともに、その後の世界無線通信協議(WRC-03)ではWorking Group議長として様々な利害が対立する難題を調整し、無線LANの国際的導入に関する規制の確立に貢献しました。平成19年、ITU-Rで最大のグループとなる第5研究委員会が設立されると初代議長に選任され、在任中には、LTE/LTE-Advancedに代表される第4世代携帯電話システムの無線上層を含む世界中の人々の生活の利便性を向上させるべく、ITU-R勧告採択実現により、携帯電話システムの更なる高度化を促進し、発展途上国を含む世界の生活の利便性を向上にも貢献しました。特に、平成27年の無線通信総会(RA-15)では、全体会議議長として重要勧告の採択に、各国の意見を纏めた功績は大きく、その手腕は高く評価されています。	
(一社)電波産業会	岸 祥行 サキヨキ サキヨキ (72歳)	東京都	㈱フジテレビジョン 常任顧問	電波の日 (個人) H21 他3件	【地上テレビ放送のデジタル化など放送事業の発展に資する貢献】 昭和43年に入社以来、技師長、執行役員常務、技術開発局長、常務取締役等の要職を歴任し、永きにわたる民間放送事業の発展に貢献されました。地上テレビ放送のデジタル化に当たっては、日本を代表する放送技術者として、伴うさまざまな課題の解決に尽力されました。さらに、関係者で設立した全国地上デジタル放送推進協議会の幹事部長を務め、全国的な送信・受信対策の司令塔として活躍され、当初の予定どおりアナログ放送を一斉停波し、世界でも類を見ない円滑な地上デジタル完全移行を成し遂げることとなりました。さらに、事前に地上デジタル放送に関するコンテナー権利保護、ハイブリッドキャスト、4K・8K放送などの実現を技術面から支えるなど、日本の放送事業の発展に大きく貢献されました。	
(一社)日本民間放送連盟	是枝 伸彦 シエタノ 伸彦 (80歳)	東京都	㈱ミロク情報サービス 代表取締役会長	旭日小綬章 H27	【通信自由化施策の推進及び情報通信業界団体を牽引】 通信改革、データ通信の自由化等により出現した付加価値通信サービスの方向性を定めるのに重要な役割を果たし、通信の自由化、情報通信の振興に大いに貢献されました。また、自由化によって出現した多くの事業者をまとめ上げ、自由化環境下における電気通信サービスの健全な発展及び電気通信サービスの充実に努め、今日の情報通信の進展の礎を築きました。さらには、(一社)テレコムサービス協会副会長及び会長として、23年の長きにわたる協会の運営・発展に尽力をし、電気通信事業の普及発展に多大な貢献をしたほか、電気通信サービス向上推進協議会及びプロバイタ責任制限法ガイドライン等検討協議会の会長として、関係団体を取りまとめ、消費者保護の観点から業界内の自主基準であるガイドラインの策定・改訂を行い、ネットの利用の適正化に寄与されました。	
(一社)日本ケーブルテレビ連盟	五ヶ 謙司 ケンジ 五ヶ (61歳)	三重県	㈱CCJ 代表取締役社長 ㈱シー・ティー・ワイ 取締役相談役	(一社)日本ケーブルテレビ連盟及び(一社)日本CATV技術協会/「第22回ケーブルテレビ功労者表彰」 H22 他2件	【ケーブルテレビ事業における次世代サービス、新分野の開拓・牽引による地域及び業界発展への貢献】 昭和63年、ケーブルテレビビジョン四日市(現：㈱シー・ティー・ワイ、以下、CTV)設立直後に入社し、当時、四日市市内で広範囲に発生していた複合電波障害問題の解決に尽力されました。平成8年には、CTV初代通信事業部長として、双方向のCATV回線を利用した一般家庭向けインターネットワークサービスを全国で最初に提供開始されました。また、平成10年、取締役就任後は、放送のデジタル化に当たり全伝送路の広域化等の施策を立案し、テジアナを交換を行うことなくデジタル放送への移行を完了させました。平成27年には三重県ケーブルテレビ協議会会長就任後は、県内全8局が災害時相互支援協定を締結するなど、地域の安心・安全に関する施策を主導され、さらに日本ケーブルテレビ連盟のケーブルID推進委員会委員長として、ケーブルIDプラットフォーム構築を推進するとともに、(一社)放送・通信連携テレビ地域情報サービスプラットフォーム普及推進機構の設立にも参画するなど、次世代サービス開発に向けた取組みを推進されています。	